

令和5年度第2回産業医科大学病院医療安全監査委員会

日時：令和6年2月1日（木） 14:00～15:00

場所：福岡大学病院・産業医科大学病院（Web開催）

【監査事項】

- 1 生体情報監視モニタのアラーム管理やテクニカルアラームの低減に向けた多職種での取り組みについて前回の医療安全監査で取り上げました。多職種での取り組みについて検討中とのことでしたが、以降、現在の状況や院内共通のアラーム設定など、取り組みがございましたらご教示ください。
- 2 理学療法士による専門的な転倒・転落予防策についてご教示ください。また、理学療法士の視点で整備したマニュアルについてご教示ください。
- 3 医薬品による副作用が発生した場合の報告体制等についてご教示ください。
 - ・担当部門に副作用情報の報告・集約される体制について
 - ・院内で発生した副作用の評価・分析、院内への周知について
 - ・医薬品医療機器総合機構への報告体制、報告件数について
- 4 循環作動薬（ノルアドレナリン）の希釈について標準化されている方法があればご教示ください。

令和6年2月16日

産業医科大学病院医療安全監査委員会

委員長 和田 秀一



○令和5年度 第2回産業医科大学病院医療安全監査委員会講評

改正医療法施行規則により医療安全管理体制整備の確認のために、令和6年2月1日に第2回産業医科大学病院医療安全監査委員会を開催しました。

監査は事前に通知した監査項目に沿って行いました。監査結果を以下に講評します。

監査事項

1. 生体情報監視モニタのアラーム管理やテクニカルアラームの低減に向けた多職種での取り組みについて前回の医療安全監査で取りあげました。多職種での取り組みについて検討中とのことでしたが、以降、現在の状況や院内共通のアラーム設定など、取り組みがございましたらご教示ください。

(講評)

生体情報監視モニタのアラーム対応の遅れによるインシデントが問題視される中、貴院では早々にアラームレポートを活用し、病棟でのアラーム状況の把握や対策を行いアラームの無駄鳴りを低減できていました。前回の課題であった多職種との連携や管理については、RRS 検討 WG 会議に多職種の一員として参加し、モニタ使用開始時の設定や生体情報モニタ使用時のカルテ記載のお願いを周知するなどの対策をとられていました。そのような改善が見られる一方、職員のテクニカルアラームについての認識の乏しさを不安視される一面も見られましたが、テクニカルアラームについての研修を計画されるなど今後の改善が期待されます。

生体情報監視モニタのアラームは常に変動があり管理には非常に難渋しますが、多職種間での情報共有と教育を継続しアラームの無駄なり低減に繋げて頂ければと思います。

2. 理学療法士による専門的な転倒・転落予防策についてご教示ください。
また、理学療法士の視点で整備したマニュアルについてご教示ください。

(講評)

専従理学療法士による専門的な転倒・転落予防対策活動について確認しました。転倒・転落インシデントへの指導・助言、新人看護師教育、市民公開講座での転倒予防の啓蒙等々、理学療法士の専門性を活かし、積極的に医療安全活動を推進していることがわかりました。また、医療安全対策マニュアル中の転倒・転落防止に関しては、アセスメントから対策立案、実施、評価までのプロセスがわかりやすく詳細に記載されており、大変素晴らしいと思えました。当院も大いに参考にさせていただきます。

3. 医薬品による副作用が発生した場合の報告体制等についてご教示ください。

- ・ 担当部門に副作用情報の報告・集約される体制について
- ・ 院内で発生した副作用の評価・分析、院内への周知について
- ・ 医薬品医療機器総合機構への報告体制、報告件数について

(講評)

医薬品による副作用事例の収集にあたっては、院内のみならず、院外（保険薬局）からの報告も薬品情報管理室に集約される体制が構築されていること、また収集された副作用事例が適切に医薬品医療機器総合機構（PMDA）に報告されていることが確認できました。副作用事例の収集については薬品情報管理室が各場面で積極的に関与し、院内への周知についても各種委員会、会議等でなされていました。

院内の副作用事例の収集につきましては、更なる報告数増加に向け、軽微な副作用事例につきましても積極的に収集する体制をご検討頂けたらと思います。

4. 循環作動薬（ノルアドレナリン）の希釈について標準化されている方法があればご教示ください。

(講評)

院内での標準化はされていないとのことですが、ICUでの循環作動薬をはじめとした薬剤基本組成表やガンマ組成早見表を作成し、薬剤の投与量間違い防止に取り組んでいることを確認いたしました。特に薬剤基本組成表は使用頻度の高い薬剤を網羅しており、適宜改定も行われておりました。引き続き、院内での薬剤の安全使用に取り組んでいただきますようお願いいたします。

以上